

ごあいさつ

2011年3月11日、東日本大震災によって福島第一原発事故が発生しました。

被災地の子どもたちは、事故により被曝し、外遊びもできない状態になりました。

私たちは、チェルノブイリの子どもたちを支援してきた経験から、放射能のある環境から一定期間離れて過ごす“保養”が必要と考えました。

探し当てた場所は、久米島の山間(やまあい)にある元陶芸工房の跡地でした。4つの建物から成り立っていましたので、本館、別館、図書館(元ギャラリー)、ピラミッド(元登り窯)として改修し、子どもたちが泊まれるように、本館に2段ベッドを設置しました。事故の翌年2012年7月5日に、沖縄・球美の里として、第1回目の福島の子どもと保護者、合計51人を受け入れました(現在までに子どもたち延べ3,851人、保護者977人、合計4,828人が球美の里の保養に参加)。オープンに至るまでには久米島の人々および海外の人々から応援・支援金を受けました。

歌手の石井竜也さん、加藤登紀子さんなど多くの皆様の賛同もいただきました。

保養が始まり、海遊び、山遊び、さまざまなプログラムを組みました。その中には、島の人たちのご協力なしには行えないものがたくさんありました。また、ボランティアさんのご協力も欠かせないものでした。

皆様のあたたかなご支援により球美の里は10年間運営することができました。

新型コロナウイルスの感染拡大の困難もありましたが、時代にあった形を模索し、現在はファミリー保養として、少人数ずつですが、保養を継続しております。

福島第一原発事故の被災地では、原発事故と10年後の新型コロナウイルスの感染拡大という「見えない恐怖」の体験が重なりました。また、激しさを増す、双葉郡の帰還促進により、年間線量20ミリシーベルトの土地に子どもたちが居住し、そこで学ぶという過酷な状況も生まれています。こういう環境下での暮らしでは、子どもたちの心身は次第に消耗していきます。

このような中、球美の里での保養は子どもたちにとって不可欠であり、健康に生きることを諦めない重要なものです。

今後、認定NPO法人 沖縄・球美の里としては解散しますが、久米島の「沖縄・球美の里」は存続し、認定NPO法人 いわき放射能市民測定室“たらちね”が、事業を運営していきます。“たらちね”は、球美の里の活動と共に、福島と沖縄の架け橋として、被災者の保養参加の受け入れと送り出しを行ってきました。

“たらちね”は今後の運営母体として、これまでの球美の里の理念を守り、保養者の皆さまに安心して球美の里の保養に参加していただけるよう尽くしていきます。

今までのご支援に感謝しますとともに、今後とも、福島の子どもたちの「保養プロジェクト」に変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2022年12月8日

認定NPO法人 沖縄・球美の里 理事長 向井 雪子
副理事長(認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね 理事長) 鈴木 薫